

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価	コメント
施策02 生涯学習の充実	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 19】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p><b>【施策の課題】</b></p> <p>●社会の変化に応じ、生涯にわたり職業能力や就業能力を持ち、社会生活を営む上で必要な知識や技能等を習得させ、それぞれの持つ資質や能力を伸長することのできるような学習の機会や場の提供など、学習支援の充実がより一層必要である。</p> <p>●個人の要求や育成に向けた学習支援に加え、市民協働の促進を図るとともに、学校や地域、家庭との連携、協力体制を強化し、家庭や地域教育力の向上を図るべく、地域社会の基盤整備が必要である。</p> <p>●経験や学習により習得した資質や能力を伸長すべく人材育成に向けた学習支援とともに、その人材を地域やまちづくりに生かしていくような循環型の学習システムの構築が必要である。</p>	<p>社会の変化に応じて生涯学習施設の見直しも計っていくというような文言も加える必要があるのではないか。環境の変化に応じて生涯学習関連施設がどのようになっていくのかという方向性が読み取れる文言が必要である。また学校施設との連携も視野に入っているということも読み取れるような表現も必要ではないか。</p>	<p>豊幌小学校に図書館分館、大麻西小学校にミニ児童館があるなど、学校施設をどのような形で生涯学習の施設として位置づけていくかという考えは底流としてある。今後の活用についても展望していかなければならないが、学校がどのように変わっていくのか、はっきり決まっていな部分もあり、表現が難しいが検討する。</p>
<p><b>【施策の成果指標】</b></p> <p>①生涯学習を行う市民割合</p>	<p>目的が「自己の充実を図り、生きがいを見出すこと」となっているので、自己の充実・生きがい等のアンケート調査をするなどし、指標として設定することが望ましいのではないか。</p>	<p>生涯学習を行う機会を充実させることで、実現していると思うので、「生涯学習を行う市民割合」の指標の中で評価できていると考えているが、さらに評価基準や表現方法も含めてアンケート調査などを検討する。</p>
<p><b>【施策の達成状況】</b></p> <p>少子高齢化、高度情報化、国際化が急速に進む中、今こそ地域の活性が必要となっている。その一端として、生涯学習が必要とされている。その状況下、健康で生きがいのある人生を過ごし、精神的な充実や生活の向上のための学習機会が望まれる。今後もより一層の学習機会等の提供や施設整備を図り、学習の成果を地域やまちづくりに発揮できるような環境整備に努めていく。</p>	<p>成果指標向上の原因分析をすべきである。</p>	<p>検討・修正等をする。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p><b>【施策の成果指標】</b> ①生涯学習を行う市民割合</p>	<p>年齢構成別の割合、目的、到達状況、求めるもの等のデータがあれば「生涯学習を行う市民割合」の数値だけが一人歩きしないと思うのでバックデータとして押さえておいて欲しい。</p> <hr/> <p>施策の課題で職業能力や就業能力の習得も生涯学習の一環としているのであれば、青少年健全育成の観点から就業目的を持った生涯学習という意味での分析をし、「青少年の健全育成推進(施策04)」のカリキュラム等を作るときのバックデータとして把握しておいて欲しい。</p>

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価	コメント
施策02 生涯学習の充実 基本事業01 生涯学習関連施設の充実	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 20】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p><b>【事業の達成状況】</b> 公民館の利用人数については横ばい状態にあるものの、指定管理者が行っている利用者アンケート調査で、施設満足度70%を超える数値となっている。生涯学習充実の為、今後もサービス向上と施設の整備を図っていく。</p>	<p>基本事業の達成状況については、成果指標に基づいた分析があり、その上で公民館の利用人数であるとか、指定管理者が行っているアンケート等による補足で状況説明をするというように整理したほうが良いのではないかと。</p>	<p>市民アンケートのクロス分析等も含めて達成状況欄に記載するよう検討する。</p>
	<p>「整備」と見ると市民がこの財政が厳しい中に何か新しい施設を造るのかと勘違いするかもしれないので、表現を改めた方が良いのではないかと。</p>	<p>新しく施設を建設ということではなく、公民館等、利用者の方に不便をかけないようにすることを「整備」の中心と考えて使用したが、今後、文言等について整理する。</p>

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価	コメント
施策02 生涯学習の充実 基本事業02 生涯学習支援体制の推進	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 20】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<b>【事業の成果指標】</b> ①生涯学習の情報が充足していると思う市民割合 ②生涯学習を主体的に行う団体数	社会教育関係団体登録数が、主体的に行う団体数ということになるのか疑問である。「主体的に行う」ではなく「登録団体数」に変えた方がはっきりわかるのではないか。	ご指摘のとおり「主体的に行う団体数」の文言については、「登録団体数」に修正したい。
	図書館の整備事業費・運営費が予算の中でも非常に多くなっているにもかかわらず、利用する市民をカウントする指標が一つもないので、例えば図書館の登録者数や貸し出し利用数などがどこかに出なければいけないのではないか。この基本事業の中に登録者数の推移などが見えてくると、生涯学習の充実へも繋がると思うので検討願う。	図書館の立場としては基本事業03の生涯学習機会の充実の方に入るべきと考える。ただ、図書館の登録者数というのは年度更新ではなく何年かに一度更新するものであるため、個人貸し出し数や団体貸し出し数のような指標の方が適切かと考える。
<b>【事業の達成状況】</b> 生涯学習推進協議会は、教育のみならず文化や福祉関係団体など様々なジャンルの団体が加盟し、市民協働のもと生涯学習を推進していく上では、核となる組織であり、現代的課題や市民の学習要求を的確に捉えた学習の機会の提供のほか、加盟団体との連携を図る事業や学習活動を行なうための学習情報や指導者情報の提供に努めている。今後は、これまでの活動を更に推進していくとともに、自主自立した協議会となることや市民団体としてボランティアなどの人材を活用する体制や地域社会の基盤整備に向けた取り組みが期待される。	「生涯学習推進協議会」という第三者的な協議会の活動に期待していると読み取れるが、自分たちの活動がどういう達成状況にあるのかという内容を記述願う。	ご指摘のとおりで、修正を検討する。
	生涯学習推進協議会と市との連携について、協議会任せになっているように読み取れるので、市が主体的に生涯学習を推進して行く立場であり、協議会の方々と協議をしながらも市としてはどういうことを目指していくのか、成果指標としてはどの辺を目指していくのかについて記載するよう文言等検討願う。	団体育成の部分をどう表記するか検討する。

政策05 豊かさと創造性を育む生涯学習環境の充実

評価項目	評価	コメント
施策02 生涯学習の充実 基本事業03 生涯学習機会の充実	概ね適切	検討事項あり

【参照：資料 - 21】

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p><b>【事業の達成状況】</b>                      現在、幼児とその親、児童生徒、成人、高齢者などと世代別にに応じた学習の機会の提供に努めているが、その成果や満足度には個人差があり、一概には判断できないものの、事業参加者においては、比較的良好な意見を得ている。今後においては、市民との協働や学校、地域、家庭との連携を図りながら、多様な学習ニーズの把握に努めるとともに、既存事業を含めて見直しや創意工夫した取り組みを進めていく必要がある。なお、情報図書館においては、読書普及事業や読書ボランティア団体などとの連携した学習の機会の提供が図られている。</p>	<p>「一概には判断できない」とか「比較的良好な意見を得ている」という表現があるが、地域別・年齢別・性別等クロス分析した結果や、比較的良好な意見というのは具体的にどのような意見なのかなど、もっと具体的に分析の内容に触れていただきたい。</p>	<p>分析し、表現を見直す。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p><b>【事業の意図】</b>                      ・学習機会がある。                      ・学習目的にあわせた指導が受けられる。                      ・個人学習に必要な資料の提供が受けられる。</p>	<p>施策の課題で「循環型」という言葉を使っているのは、生涯学習の結果を社会に還元していくことを意図していると思うが、この部分はまさにこの基本事業03だと思う。実際、成果指標にも「学習した成果をまちづくりやボランティア活動等に活かしている市民の割合」とあるので、意図のところにもその表現を追記する必要があるのではないか。</p> <p>下の二本は一番上の一本目に含まれると思うので、三本に分ける意味があるのか。分ける意味があるのであれば、それぞれに成果指標が必要になるのではないか。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p><b>【事業の達成状況】</b>  現在、幼児とその親、児童生徒、成人、高齢者などと世代別に応じた学習の機会の提供に努めているが、その成果や満足度には個人差があり、一概には判断できないものの、事業参加者においては、比較的良好な意見を得ている。今後においては、市民との協働や学校、地域、家庭との連携を図りながら、多様な学習ニーズの把握に努めるとともに、既存事業を含めて見直しや創意工夫した取り組みを進めていく必要がある。なお、情報図書館においては、読書普及事業や読書ボランティア団体などとの連携した学習の機会の提供が図られている。</p>	<p>市民は、ニーズが多様化するだけでなく生活圏が拡大している。併せて学習要求も多様化するだけでなく高度化している市民が多い。そういう人たちに応えるための人材育成や人材活用を強調する必要があるのではないか。</p> <p>また、生活圏の拡大に関連して、近隣自治体間の連携が必要ではないか。横断的に生涯学習というものについて考えていく必要があると思う。</p>
<p><b>【事業の全体の指摘】</b></p>	<p>江別市の生涯学習の特性として、生涯学習した成果をどういう場面で活かされているのかという「分野」にスポットを当てると、充実がさらに図られるのではないかと思う。一般的な統計分析プラットフォームで独自の分野というものを見つけて、それを伸ばすことで生涯学習機会の充実がさらに図られるのではないかと思うので、その視点も押さえて欲しい。</p>